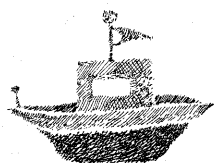


『地域の応接間』をひらく

熊谷 博子



私が住んでいるのは、東京・杉並区の荻窪駅の近く、路地の中だ。都の防災危険マップとかで見ると、しつかり赤く塗られているような場所である。しかしこの一角に、二年前の四月、「もえぎ公園」がオープンした。区で初めての、住民管理の公園である。

この公園ができるまでには、本当にいろいろなことがあった。一九九二年の秋に、区がこのあたりの住民に呼びかけ、「まちづくり協議会」を作った。私も夫も、手を挙げた住民の一人である。まだ、子どもが一歳だった。それから二年間、月に一度、住

民・行政・コンサルタントが一緒に、タウンウオッチングや勉強会や、ワークショップやら議論やらいろいろやり、「誰もが安心して快適に住み続けられるまち」という提案書を作り、区に出した。一九九五年一月初めだ。そしてあの阪神震災が起きた。

公的には、この提案書を出した時点で協議会は解散した。しかしもつと続けたかった仲間の数人で、「あまさんネットワーク」を作った。住んでいるのが天沼三丁目だからである。実は以前から目をつけている土地があった。公園Ⅱ『地域の応接間』を作りたかったのである。バブル期であればすぐにでもマンションが建つような場所が、幸いバブル崩壊後で空き地になったままだった。私たち個人で買うのは難しいが、区なら買えることを知っていた。

しかしただ買ってというだけではまるで迫力が

ない。その土地の大きさも形もわかっているの
で、こういう公園がほしいと勝手に設計図を描いて区と話した。春には、一本だけ残った桜の木の下で花見をし、子どもの日には、子どもたちを集めてこま回し大会をやった。その度に、近所の住民にも行政の人々にも声をかけた。路地と路地の間、ここを公園にすれば、抜け道もできて防災上もいい、と区に叫んだ。

こうして土地は買えることになり、私たちは
やったーっ！ と小躍りした。しかし今度は、対
住民というさらにややこしい問題が待ち構えてい
た。

空き地の隣りには、日時計などが置いてあるポ
ケットパークがあった。一体化すればちよつと広
い素敵な公園になる、と私たちは思っていた。で
も隣接する数家庭は、斬新なデザインであるが
ちよつと暗いポケットパークにこりていた。ホー

ムレスが来る。夜遅くまで中高生の溜まり場になり、うるさい。

この中で、区が町会や住民に呼びかけ、月に二回の話し合いとワークショップが始まった。具体的に皆でデザインを考えるのだ。もともと、公園の三種の神器―砂場、すべり台、ブランコのあるような公園は作らないつもりだった。路地の中の、自然な草っぱら広場がほしかった。

その一年半の間に、様々なことが起きた。隣接数家族は、集まりに来なくなつた。そして区会議員を通じ区長に中止を直訴した。しかし区は、区も行政サービスはしますが、住民の一員ですからと、もう一度私たちに戻してきた。ここから、本当の話し合いが始まった。

最終的に隣接住民が言ってきたのは、『塀と鍵』であった。公園に一八〇センチくらいの塀を立てて鍵をかけてほしいと。塀と鍵をめぐるの進ま

ない論議が、半年近くあった。しかし何かあれば、隣接住民が最も迷惑をこうむるのも、よく分かっていた。妥協策を探さなくてはならなかつた。

今、私の家の前の路地を曲がって少し行くと、「もえぎ公園」の、ちよつと贅沢な気持ちのいい空間が現れる。そこには五十種類以上の植物が植わり、見通しもよく、路地と路地をつなぐ小さな抜け道もある。でもその三分の一をしめる部分は、すけすけの柵のような塀で囲まれている。私たちはここを、「天沼自然生態園」と名づけた。中には、昔ながらの手押しポンプの井戸から水が落ちる、小さな池がある。入り口には鍵がかかっている。その鍵は、私たちが持っている。今、私たちは、毎月第四土曜日をワークデイと決め、いろいろな作業をしている。

実際に公園を作ろうと思いついてから、できる



◀「もえぎ通信」20号より

2001年 2月20日発行 もえぎ通信20号 せき公園利用者会発行

「もえぎ通信」

2月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	31

3月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

カレンダーの個人情報は、印刷時削除します。おぼたもいひが?
編集室：杉並区天沼3-29-19 土井万 電話 3393-6429

ワークデーは
毎月第4土曜日
午前11時からです

までに、四年間かかった。まちづくり協議会に参加しはじめた頃は一歳だった私の子どもは、今や小学四年生になった。

この「もえぎ公園」で、住民管理の自主運営を始めて、地域に変化が起きてきた。人々と子どもたちのかかわり方である。

もえぎ公園 野原遊び会

2001年3月24日(土)
AM11:00~PM3:00

- イザール(まだ使える不用品の売却)
- 自然観察四コマ漫画の野外展示
- ネイチャーリスの制作

誰でも参加自由、親子で楽しむ野原遊びです。

○天沼3丁目「もえぎ公園」は、利用者と行政が協力して運営する新しい私たちの公園です。
○「もえぎ通信」は、利用者が、新々の公園をめぐる情報を伝えあうことで、一緒にこの公園を育ててゆこうという趣旨で発行しています。

ワークデーに子どもたちが集まる。先週は、小さな田んぼを作ることにし、穴堀り作業をした。来週はいよいよ田植えだ。路地の中の異質な空間は、こうして季節とともに姿を変え、その様子

は、漫画入り「もえぎ通信」で町内に報告されている。

(映像ジャーナリスト)